

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回吉川市総合戦略推進審議会
開 催 日 時	平成27年11月18日(水) 午後7時05分から 午後9時20分まで
開 催 場 所	吉川市役所 第2庁舎 201会議室
出席委員(者)氏名	大杉覚委員、瀬山紀子委員、田口政博委員、小西毅委員、 田中博委員、吉田勝人委員、阿部秀夫委員、程田幸秀委員、 小林照男委員、飯村毅委員
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	[市出席者] 市 長 中原恵人 副市長 椎葉祐司 参 与 土屋綱男 [事務局出席者] 政策室長 岡田忠篤 政策室主幹 吉田誠 政策室企画担当主査 宮田匡寿 政策室企画担当主事 東原拓哉 政策室企画担当主事 小林洵
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1. 開会 2. あいさつ 3. 報告 4. 議事 (1) 基本方針(目標)の修正について (2) 具体的施策・KPIについて (3) 次回会議日程について (4) その他 5. 閉会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	5人
会 議 資 料 の 名 称	次第 資料1「総合戦略策定に係るワークショップ報告書」 資料2「吉川市総合戦略具体的施策・KPI(素案)」
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	小西毅委員、阿部秀夫委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1 開会
会長	2 あいさつ お忙しい中、足元の悪い中お集まりをいただき感謝する。事前に資料が配布されているが、本日は、事務局のたたき台として総合戦略の案が示されている。少ない回数の中で、本日と次回辺りが一番の山場になってくる。前回に引き続きよろしくお願ひしたい。

会長	<p>3 報告</p> <p>議事開始前に本日の議事録署名委員を選任したい。小西委員、阿部委員を議事録署名委員にお願いしたい。</p> <p>(両名、了承)</p>
事務局・支援業者	<p>資料1「総合戦略策定に係るワークショップ報告書」を用いて説明。</p>
会長	<p>【意見・質疑等】</p> <p>ワークショップに参加した3人の委員から一言感想を聞きたい。</p>
委員	<p>非常に有意義な時間を過ごした。吉川市の長所・短所を表すことができ、それを元に取り組むべき問題等を探っていたのではないかと考えている。ただ、時間の都合上致し方ない部分もあるが、強み・弱みを加味して、次の政策に持っていく議論をもう少し深くやった方がよいと感じた。</p>
委員	<p>積極的な意見が出て、有意義な時間を過ごした。具体的に強み・弱みを話し、住民が感じる率直な意見が出ていると感じた。しかし、時間の制約があり、次に吉川市がどういう風に取り組んでいくかの議論を深めたかったと感じた。</p>
委員	<p>市民が真剣に吉川市の将来を考えていると強く感じた。ワークショップ自体は少人数の開催であったが、同様の考え方を持った人が吉川市民には相当数いるのではないかと感じた。そういった方々の意見や要望をもっと吸い上げられるような機会を作ることができれば、本当に大きな力になると感じた。現実的には難しいだろうが、吉川市の将来がこうなしてほしいということを我々がやっている審議会の中にも入れ込んでいけたらと思う。</p>
会長	<p>これまでもこういった一般向けのワークショップは開催しているのか。</p>
事務局	<p>第5次総合振興計画の基本構想や前期基本計画の策定時には、無作為抽出による市民討議会を開催するなど、取り組んでいる。</p>
会長	<p>計画を作る際には、よく取り組まれるが、それ以外の機会に市民参画のきっかけを作るものとして、いろいろな市民を引き出し、こういう方がいてこんな意見があるという、そういう顔が見えるような新たな関係を作るものとして、非常に貴重な機会であると思う。また、若手職員のワークショップも将来を担う人材を引き出してくるものとして有効である。</p>
委員	<p>今の報告を受けて、ワークショップの意見を自分なりにまとめたので報告したい。</p>
会長	<p>委員が熱心に取り組み、それを資料にまとめてくることはとてもいいことである。しかし、仮に沢山の資料が提出され、市が作った資料であるのか個人の資料であるのかが混乱してはいけないので、</p>

	<p>今後のためにも、資料を配布するにあたってのルールを作りたい。今後は、事前に提出し、会長の許可を受けるといったことをルール化したいがどうか。</p> <p>[全委員了承]</p>
会長	<p>それでは、本日は、初めてのケースであり、事務局もコピーをしているということであるので、配布してもらいたい。</p> <p>[資料配布]</p>
委員	<p>資料に基づき、「ワークショップで出た意見の解析・分析結果」、「計画の設定」、「幸福感の数値化」について説明。</p>
会長	<p>ワークショップの参加を通じて、とりまとめ方のご提案をいただいた。今回の総合戦略の中でどういう項目をどれだけ考えていくのか、ワークショップの中でこうしたまとめ方をすると参加者にとって分かりやすいという事例であった。今後、特に総合計画を作っていく時にこうした取り組みを参考にしていくとよい。今回の総合戦略の中では絞られてくるので、具体的な施設の整備などを取り入れるかは難しいが、1つの分析方法のご提案としたい。その他に意見等はあるか。</p>
委員	<p>今回のワークショップでは、住民が住民に対する良いイメージや悪いイメージが特にない。他では、新住民が旧住民に対し閉鎖的であるとか、旧住民の新住民に対する思いなど、ポジティブもネガティブも含めて意見が出がちである。参加者の属性で言うと、生まれたときから市民であるとか、親子3代で市民だとか、引っ越して間もないなどの属性はどうか。</p>
事務局	<p>無作為抽出の方法としては、対象者を年齢・居住別で一覧表を作り、等間隔で300人を抽出し、案内状を送付している。参加意向のあった方の居住年数などその背景は分析していない。</p>
委員	<p>無作為の中で行ったということであり、市民同士の仲がよいのではないか。</p>
会長	<p>無作為で選んでいるが、全員が参加しているわけではないので、参加者には新住民が多かいなどのバイアスがかかってくることもある。本来であれば押さえておいたほうがよかった。</p>
支援業者	<p>居住者間同士の意見が少なかったことと、全体を通じて、短所ばかりでなく長所も同じくらいの意見が出てきたのが大きな特徴である。</p>
事務局	<p>4 議事 (1) 基本方針（目標）の修正について 次第、資料2「吉川市総合戦略具体的施策・KPI（素案）」を用いて説明。</p>

会長	<p>【意見・質疑等】</p> <p>修正案②が事務局の原案であるという説明であった。これに対して意見等はあるか。</p>
委員	<p>基本目標 2 について、「市民の幸福実感を追求する」とあるが、「追求」と「向上」の違いを教えてください。</p>
事務局	<p>市の仕事は、市民の幸福実現である。それを積極的に進めていくという姿勢を出すために「向上」ではなく、「追求」とした。</p>
会長	<p>地方自治法では、住民の福祉の増進が前提となっている。向上することは当たり前として、さらに一段踏み込んだということである。キャッチフレーズ的な部分と具体的な行動として示さないといけない部分もあり、好みが入ってくるころなので議論は難しいが、なるべく多くの方々に受け止めやすく、理解していただきやすいようなものとして考えていくという事務局の考えである。</p>
委員	<p>教育の充実など、いろいろな言葉が入ってきており、行間を読めば考えなければいけないことが入っている。自分が感じることは、先日、さいたまマラソンがあり、沿道の応援でおじいちゃんがタバコを吸いながら応援している。また、車に子供を乗せている母親が子供にシートベルトをせずにタバコを吸って運転している。そういうことをなくしていくことが教育とか環境の向上の基本であると考えられる。公共性とか家庭内教育とかいろいろあると思う。自分も吉川に引っ越してきて20年経つが、古くから住んでいる人と引っ越して来た人との考え方や住環境など多くの違いがあり、それはワークショップでは出されていない。いろいろとやっていく中で具体的なことは今後であると思うが、少し具体性が見えてきたものになってきていると思う。</p>
委員	<p>目標は何年間有効か。</p>
会長	<p>基本的には、総合戦略は5年間である。</p>
委員	<p>修正案②について、前回の抽象的なものからキーワードも出されてかなり分かりやすいものになってきたと感じる。「結婚」という言葉もあえて外し、「出産」と「子育て」になったことについても歓迎する。結婚・出産・子育ての並びで出されることが、ライフスタイルの選択肢の幅を狭めてしまうこともある。そこを解消しようと書かれている部分は良かったと思う。また、目標 2 の「多様な就業機会の実現」という言葉が入ったことについて、県では多様な働き方の促進をしている企業を認定しており、1つのキーワードではありつつ、一方で多様な就業機会・希望と言った時にそれだけでは十分に言えていない部分もあると思う。こういう形で長時間就労という働き方の在り方ではなく、もう少し違う働き方ということも選択肢として提示していくということも行間から読み取れるので、とても良くなったと思う。</p>
委員	<p>基本目標 2 「市民の幸福実感を追求する」について、追求でよ</p>

	<p>い。マズローの5段階欲求説ではないが、「自己実現の追求」として、人それぞれの幸福感を持っているので、「追求」でよい。また、「製造業や農業をはじめとした地域産業の成長と雇用、就業機会の拡大」とあるが、「拡大」という言葉は、製造業の地場産業がどういう位置づけであるかということを考えていくと、単純に拡大するのは非常に難しいのではないかと考えていくと、生産人口が削減され、パイが縮小している中でどうやっていくかを考えると、雇用＝コスト、コスト以上の生産性を追求していかなければならず、キャッシュを生み出せなければ、投資ができないという話になる。短時間労働だとか、その人たちのワークライフバランスに取り組んでいければ、もう少し深みや実現できる部分がある。当社は7千人の雇用のグループであるが、その中でパートもたくさん雇用し、それぞれの雇用形態を作り、やっている。地域経済の貢献や企業としてできることも考えていきたいと思っている。</p>
会長	<p>「拡大」は、既存の部分を広げていく発想にみえるということか。</p>
委員	<p>既存の部分を拡大するのは無理である。今の社会では、特徴のある物・商品・サービスを生み出し、付加価値を付けられるかである。今回の地方創生でもどうやって雇用を生み出すかが柱になっている。どうやって持続性・サスナビリティをつくり出して、他の委員が言う納税できる住民を取り込んでいくのかになる。</p>
会長	<p>ここの表現は、既存のものに関しては、付加価値を付けて所得水準が上がるところに持っていくとして、それに伴って、街全体が新しい雇用の場が創出されるとか、従来、いなかった人たちが入ってきて起業する、店を出すなども含めて、広い意味での雇用の創出を言おうとしているが、「拡大」とすると、すでに事業をしている人からすれば、自分たちのパイを広げるのかと読み取れるとすれば、表現を修正したほうがよい。</p>
委員	<p>修正案2はキャッチフレーズ的でとても分かりやすく、多くの人に受け入れやすいという意味ではとても良いと思う。多くの人が見て、イメージで良い印象を与えられるようなことが盛り込まれているので、これでよいのではないかと。</p>
委員	<p>修正案2で良いと思うが、製造業や農業以外にも観光など他の産業もあると思う。</p>
会長	<p>「製造業や農業をはじめとした」ということは、「地域産業の成長と雇用」にかかってきて、既存のこの話であり、「就業機会の拡大」とは、新たな雇用の創出という意味合いであるということではないかと。</p>
事務局	<p>その様に理解してもらいたい。</p>
会長	<p>それであれば、そのことが分かるように表現を修正してもらいたい。</p>

委員	この5年間の計画であるので、5年もたてば産業の在り方は変わってくる。製造業と農業だけではなくいろいろな捉え方ができるように書いたほうがよい。
会長	総合戦略自体は、5年であるが、人口ビジョンはその先まで考えていて、そこに向かっていくための最初の5年間で何をしますかという計画である。将来的にこういう地域にしたいというところから逆算して、この5年間を考えていくものである。大きな方向としてまずどういったことに手を付けていくのか、この後の議論でご意見をいただきたい。
委員	多様な就業機会の実現というところで、もう一步言葉を付け加え、「多様で公正な」という言い方ができないか提案をしたい。幸福実感と言った時に単純に多様なというだけではなく、そこに公正であるということが、これからの若い人も含め、非正規という雇用が増えている中で、働くことが公正であり、かつ、選択肢があるということが重要である。
会長	新たな提案であるが、どうか。
委員	全く異論はない。
委員	目標1、2が決まったとして、市民がこの目標を共有して、市民が自ら取り組んでいけるように、広報紙に毎月掲載するなど市主導で取り組んでもらいたい。
委員	基本目標1について、教育について書いてあるが、「確かな学力」とは、学校の成績というニュアンスでとってしまう。子どもはいろいろなものに興味を持って、大人が発想しないことまで考える。そのため、「独創的な」とか「創造的な」という言葉を付け加えてはどうか。
会長	教育というと学校教育だけではなく社会教育もある。人間としての想像力も重要である。提案として受けてたい。
委員	キャッチフレーズはあまり好きではないので、その下の説明が重要である。子どもたちの笑顔と活気と言ったときに、教育や学力がどうかという話は、もっと細かい話をして行かないと出てこない話である。ここで、延々と議論するよりも、さらに進んで細かい話を議論した方がよい。
会長	ここに書いてある項目の部分は、前回に比べると少し明確にしている。ここで、しっかり戦略を実現していくものとして、細かい部分をきちんとまとめあげられているものになっているか、そこが肝心である。
委員	ここは大きなことを言っていて、この次のK P Iの部分をしっかりと議論したほうが実効性があるものになる。また、学力部分については、「確かな学力」は、認知能力であって、「豊かな心」とは、非認知能力である。「確かな学力」、「豊かな心」と入っていれば、全

	<p>てを網羅している。あとは、各論の方で想像力を育むためにはどうなんだということ落とし込んでいけばいいのではないかと。大きく捉えられるように書いているので、違和感がなかったという感想である。</p>
<p>委員</p>	<p>目標の始まりが「子ども」、「市民」となっており、どうしても若い世代向けへのメッセージと捉えられる。高齢者へのメッセージは薄いように感じた。</p>
<p>会長</p>	<p>総合戦略は、「総合」と言っても、環境や福祉などの全てを含んでの総合というものではなく、子育てや人口の課題、雇用の好循環を集中してやっていくというものであり、どうしても次の世代をどうしていくかという戦略になる。高齢者の子育てへの関わり方などは、細かい事業を見ないと分からないので、決して高齢者が関係ないと言っているものではない。そういった、絞り込まれた計画であるということを市民に伝えていかなければならない。また、地方創生の取り組みは、すでに人口が半減している地域が想定されつつ、全国で作るものである。東京やその近郊も含め、人が外に出て行けと言われている地域では、この計画は作りづらい。人口が減っている地域では、目標にはもっと具体的なことを書き、そこに指標を結び付け、評価ができるようにしている。ただ、この地域は、もう少しは人口も増え、まちを作る計画もある地域なので、作り方も少し変えなければ総合戦略は作りづらい。この地域はキャッチフレーズでもよいのではないかと。</p> <p>この原案については、市の本部で決定されたということである。市長がその本部の長であるということなので、もし、市長から想いがあれば、発言をもらいたい。</p>
<p>市長</p>	<p>会長からもお話があったが、吉川は人口が増え、これから新たなまちづくりにも取り組む中で、他市と同じことをしているのかと疑問に感じていた。委員と個別に面談する中で、またワークショップをする中で、もう少し尖ったものを出していくべきではないかと、人口が増えていくことを出していかななくてはならないのではないかと考えている。子どもが増えているという中では、「子ども」を前面に押し出すべきであり、「結婚」については、ライフスタイルを限定してしまうということの外した。子どもというキーワードは将来的には高齢者にもリンクし、子どもの笑顔作りのためには高齢者も力を尽くそうとなる。確かな学力については、もう少し尖ったものを出していきたい。</p> <p>次に目標2についてであるが、委員からの意見として「農業」や「製造業」のキーワードとして取り入れた。雇用の拡大については、「創出」という言葉を選択すべきであったと強く感じている。女性の多様な働き方については、公正という言葉の提案については、今後十分に検討したい。</p> <p>最後に新住民・旧住民の話をしたいが、傍聴に来ている市民の方々がいわゆる新住民の方であるが、ワークショップにも参加していただき、フェイスブックでもいろいろな活動をされている。その活動には基本的な理念があって、地で暮らしてきた人たちとコミュニケーションをきちっととって、吉川を作っていこうという精神で満ち溢れている。先週、市民まつりがあったが、古くから住ん</p>

	<p>でいる農家から子育て世代のサークルまでが一堂に会していたが、その中でリーダー的な役割を新住民の若い人たちが務めてくれていた。そういう意味では、ワークショップの結果にいがみ合いが出てこないというのは、旧住民が心を広く受け入れているし、新住民は一緒にやっっていこうという力が強いまちである。</p>
事務局	<p>(2) 具体的施策・K P Iについて 資料2「吉川市総合戦略具体的施策・K P I（素案）」について説明。</p>
委員	<p>【意見・質疑等】 輝く☆子どもたちの育成プランのK P Iについて、教育分野についてはより具体的な方が良い。例えば学力水準を県内のここまで上げるとかでも良いのではないか。学力以外の指標についても必要と考える。茨城県古河市では慶応大学と連携し、まちをあげた教育改革が進み始めている。教室内のI T利用状況、タブレット端末が生徒の人数に対して何台あるか、電子黒板や、教室内にP Cが何台あるかなど学校内のネットワークの進歩率等でもいいと思う。 子育て支援充実プランでは、保育所の待機児童数は全国的に減少傾向であるため、これだけではナンセンスである。他自治体では、待機児童は将来減少するため今後作らないという施策を打ち始めているところもある。保育所を増やすという政策は、もう30年取り組んできて、急激に保育所は増加した。昨年度からは待機児童数の増加傾向も収まりつつある。保育所が増えれば、合計特殊出生率が上がるのであれば、すでに出生率は上がるはずである。しかし合計特殊出生率は上がっていない。つまり今までの施策では合計特殊出生率は上がらないと証明されているのである。極論で言うと、保育所が増えれば子育ての負担が減少するというのは古い。子育てが保育園だけでできるものではない。その他の部分の指標を入れ込むことが「尖った施策」になる。出産の希望実現プランについては、正しいK P Iになると思う。ただし、この数字をK P Iにしたからといってこれだけでは足りないと感じる。ここはもう少し増やした方がよい。</p>
委員	<p>子育ては、父母が目の前で行うものと感じる。保育園に預けることが子育て支援とは思えない。女性の就業率が低い県が本当に駄目なことなのかと思ってしまう。女性が休職しても復帰できる体制を整える施策が必要ではないか。</p>
委員	<p>女性が働くというイメージは、働くか、保育園に預けるか二者択一ではなく、いわゆる労働力率というのは、育児休業期間中の方も含まれている。また、子育てにより離職した方、働きながら子育てしている方を含めるかにより変わってくる。女性が仕事を辞めるという選択は、男性の方が安定した雇用があるというのが前提となっており、女性が自らの希望として選択できるかどうかが重要である。男女が働きながら子育てをしていくということも考えていかなければならない。本人の希望だけではなく、現実社会の問題があると思う。</p>

委員	<p>子育て支援充実プラン、地域産業躍動プランについてですが、K P Iについては、企業内保育所の設置数とかはできないか。企業側としてもそのような就業環境を整備することで、人材確保にもつながるのである。近隣の転入者も多いことからアピールにつながると考えている。</p>
委員	<p>待機児童の解消について、子育て支援は、保育所だけではない。つまり子育て支援は0～6歳までではないということ。6歳以上も当然子育て支援であるということである。企業内保育所の充実というのは非常に重要であり、指標としては大変いいと思う。</p>
委員	<p>子育て世帯を応援するような優秀な企業を是非誘致していただきたい。</p>
委員	<p>子育ては家庭環境が大事と考えている。皆勤賞以外についても必要と考えている。家庭環境が大事だと考えているので、両親の喫煙率とかはどうか。何か家庭環境の指標はないだろうか。</p>
会長	<p>両親の喫煙率については指標と設定するのは難しいと思われる。K P Iは必ずしも数値化できなくてもよい。こういう状態に持っていくという設定もあると思う。例えば、家庭と学校の連絡体制の確立等の指標の設定を事務局には考えていただきたい。</p>
委員	<p>ポイントラリーのような形で、例えばスポーツ大会、学校の皆勤賞、清掃といった行事を総合的にポイント化してK P Iとすることはできないか。</p>
委員	<p>教育リテラシーの高さというものがあり、地域的に格差があり、世帯収入にも表れることは証明されている。教育リテラシーの理解度を高めるような活動をし、数字にどのような変化が起こるか重要である。学力だけではない部分については、認知能力、非認知能力といったものである。例えば粘り強さを育てたいなら、無理矢理英才教育するよりも、礼儀作法を教えた方が将来的には有効であると実証されている。これらをK P Iしてみてもどうか。これらは、専門機関と協議すれば十分可能であると考えている。</p>
委員	<p>域産業躍動プランのK P Iについては、市民意識調査の結果を指標としているが、市民が市内で働いているよりも、都内で働く方が多いと思う。市内事業所に勤めている市民に対して調査が行えれば有効だと思う。企業数、税、新規企業数等も視野に入れた方がよい。</p>
委員	<p>吉川市内の仕事がしやすい状況を指標とするならば、市外の方で市内事業所に勤めている場合も調査できると面白いかもしれない。</p>
委員	<p>子育て支援では夫が早く帰ることも一つと考えている。市民が市内に就職することで、夫が育児に参加できる仕組みを作れるのかもしれない。また、世界に伝える!吉川の魅力プランのK P Iについては、もともとふるさと納税が、まちではなく商品が好きなだけで選ばれている気がする。指標としては好ましくないと思う。転入を</p>

